

FONS

縁しんろと心路

青蓮寺住職 藤井 智

『縁』によって生かされている私との出会い。
『縁起』と聞くと、縁起がいいとか悪い
とか考えるかも知れませんが、『縁起』と
は元々仏教の根本思想の一つで、全ての物
は「縁」によって起きている、という意味
なのです。これが仏教的平等思想の根幹で
有り、「生かされている私」との出遇とな
るのです。

青蓮寺には「豊後国の二孝女物語」と
いう史実が残っています。約二百年前、旅
の途中病に倒れ青蓮寺で養生していた父を、
七年越しに消息を知った娘二人が二ヶ月に
もおよぶ苦難の末辿りつき、翌年には両藩
主も力を貸し帰ることが出来たという話で
す。娘達は「お父さんは独りぼっちじゃな
かった」と多くの村人が父を助けてくれる
姿を見て心から喜び手を合わせます。帰
郷後娘達は「常陸国は極楽のようだ」と
話しています。人の悲しみを自分のことと
して悲しみ、人の喜びを自分の喜びとして
喜んだ当時の人々の心が、現代の私達に大
切なことを教えてくれています。

特集 — お寺体験記 其の二

高橋靖浩、安嶋隆、萩谷浩司、黒澤貴子、原田静雄

何気ない日常の中にも、人と人との出会い、「縁」があります。生涯学習は、そのような「縁」を結ぶ機会の一つとして多くの方がかわつておられると思います。フォonzでは、縁にゆかりのある場としてお寺での体験記をご紹介しますが、今回はその後編です。縁や「絆」の大切さや奥深い強さを感じる機会となりました。



寿松院座禅会

寿松院は、もと臨済宗で建治元年（二七五）開創。太田山寿昌寺と称し、鎌倉にある建長寺の末寺でした。

徳川光圀公は西山荘に隠棲後、しばしば寿昌寺を訪れ、境内地にあつた松の木をこよなく愛したことから寿松院と改称して、様々な援助を行い当寺の寺宝、十二面観音像は光圀公の寄進によるものであるとのことでした。

寿松院では、毎月第一・第四土曜日朝七時から坐禅会を行つております。どなたでも参加できます。私たちが何つた日は、二十五名の参加がありました。



寿松院境内



ご法話の様子



警策（きょうさく）の受け方



坐蒲（ざふ）

まず最初に住職から、座禅の準備／座禅の終わりまで、丁寧に作法の指導をいただきます。

- 二、入堂の仕方ー左足から入る。
- 三、足の組み方ー坐蒲がおしりの中心に位置するようにして、深すぎず浅すぎず坐り、足を組む。

足の組み方は結跏趺坐でも半跏趺坐でもよいが、大切なことは、両膝とおしりの三点で上体を支え、姿勢を調え、呼吸を調え、心を調う。など、すべて初めてのことでしたので覚えるのは非常に大変でした。



住職の飯河 孝道さんと副住職の飯河 泰明さん



御膳：右奥のお菓子が置いてある懐紙には「一期一会」としたためられていました。

寿松院（曹洞宗無量山 寿松院）
田渡町 3 3 5

坐禅時間は約二十五分、その後「般若心経」の読経と「心に関する」ご法話をいただきます。続いて、住職のご厚意による奥様お手製の朝食を頂戴しました。片付けは参加者全員で行い、修了となります。「座禅」から心についてのお話で自分と向き合い心の在り方を問いかけ、おもてなしの食事をいただくことで、ありがたさや思いやりを感じ、心の洗濯となるような一日となりました。



永代経法要の様子



正念寺 永代経法要体験

季節は冬から春へ、雷鳴が轟き激しく雨が降る、私たちが寺を訪ねたのはそんな一日でした。住職と奥さんそして副住職の息子さんへ挨拶をし、お話を伺いました。正念寺はもと願入寺と称し、如信上人（一二三五〜一三〇〇、親鸞聖人の孫）の開基に因るものとことです。



大勢の来場者

寺が行っている『歎異抄』の勉強会のことや、浄土真宗が昔から継承している大衆とのつながりについて、例えば安土桃山期の織田信長を例にとり、なぜ信長が浄土真宗本願寺派を恐れたのか、など興味深いお話を聞かせていただきました。毎年三月には、永代経法要（永代読経・末永くお経を唱えること）を行っています。故人のご縁のもとに寺に集い、この世の私達がお

経を唱え、教えを後世につないでいくものです。今年は三月八日、その当日に私たちも伺いました。本堂には門徒の方々や、読経の後に催される講談を拝聴するため来場した一般の方々が大勢集っています。佐竹知信住職の講話の後、数人のお坊さんの主導により、集った人たちが読経を始めます。壮嚴ななかにも力強い読経が混声合唱のように響きわたります。



読経を唱える方々

読経が終わると、口演者として出番を待っていた、声優でもある講談師の一龍齋春水いちりゆうさいはるさんにより「金子みすずの生涯」が披露されました。春水さんの迫真の話芸は、私達聞く者の心に強く迫ってきます。みすずの詩「こだまでしようか」と「星とたんぽぽ」は東日本大震災の折、連日テレビで放映されました。「遊ぼうっていうと…」や「見えぬものでもあるんだよ」といったフレーズをご記憶の方も少なくないと思われます。

この言葉が講談師一龍齋春水さんによって語られると、住職の講話も相まって、「人間の本质とは何か?」「存在とは何か?」深い問いとして聞くものの胸に届きます。



一龍齋春水さんによる講話の様子



住職の佐竹 知信さん

正念寺(浄土真宗本願寺派正念寺)
久米町 20-1



佐竹住職さん、一龍齋春水さん、と取材の私たち



一龍齋春水さん



青蓮寺しょうれんじ 二孝女物語発見記

青蓮寺は二孝女物語の舞台として知られるようになりました。なぜ、この物語が注目を集めるようになったのか、詳しい由来をうかがってきました。

住職の藤井智さんが平成八年に入寺されるまで、青蓮寺は二十数年もの間住職もなく荒れた状態だったそうです。住職を引き受けるかどうか悩みながらも一度寺を見てみようとしたところを訪ねた折、地元の方々が住職たちの手を握りしめ、歓迎してくれたことなどがあり、この青蓮寺に縁を結ぶことになったそうです。



石段と屋根がなんとも印象的な青蓮寺



発見された二孝女物語に関する手紙(写真左下)と取材させていただいた藤井住職さん(写真右奥)

その後、平成十六年に大分県の臼杵市から一本の電話があり、臼杵市に伝わる二孝女物語の研究会の方から、何か物語についてお話はご存知ありませんかとの問い合わせをいただいたそうです。荒れ放題だったお寺の片付けもまだなかなか進んでいない中、近所の方に尋ねてみても知っているといるという人は見つからなかったそうです。翌年、片付けを続けていたところ、長持が見つかり箱を開けてみると、中から古い手紙のようなものが見つかりました。これを水戸の郷土史家の方に確認してもらったところ臼杵市のお寺からの手紙等ということが分かり、この物語が史実だと分かったのです。



「二孝女物語」は、約200年前に旅先の常陸国（現常陸太田市）で病に倒れた父を迎えに、豊後国臼杵（現大分県臼杵市）から苦難の旅をした2人の娘の孝行話。



講話の様子



住職の藤井 智さん

青蓮寺（浄土真宗本願寺派皇跡山極楽院青蓮寺） 東連地町200

その後、御説教として多くの方に二孝女物語をお話ししてきた藤井さん。地元の小学生にお話をしたとき、「自分の先祖が人に優しく、困っている人を助けてあげられるような人でとても嬉しかった。本当に嬉しいということはテストで一〇〇点を取ったりとか、欲しい物を買ってもらったりというように今まで自分が思ってきたこととは別の事だと分った。」という感想を聞いたのが思い出深いそうです。二人の姉妹の父親を思う気持ちと、その気持ちに打たれて二人を助ける多くの人達。時代が変わっても、人を思いやる気持ちは変わらないものなのでしょう。

常陸太田市指定文化財集中曝涼 平成30年10月20日（土）・21日（日）に開催！

前号と合わせて紹介しているお寺のうち以下のお寺が集中曝涼に参加しています。



2 3 2018年4月発行フォンス84号「お寺体験記 其の一」をご参照下さい。

常陸太田市指定文化財
ばく
りょう

集中曝涼

市内に数多く伝えられる普段は見ることができない貴重な仏像や絵画などを、出し入れを兼ねて特別に公開します。

2018.10.20日・21日
10:00～15:00まで（一部16:00まで）
※雨天中止。雨天の場合は公開される文化財が限定されます。

常陸太田市教育委員会文化課 〒313-0055 茨城県常陸太田市西二町2200
TEL:0284-72-3201

主催：常陸太田市教育委員会
協賛：常陸農業協同組合/常陸市観光協会/（一財）歴史ふるさと振興公社/常陸太田産業振興機構
協力：茨城大学人文社会科学部歴史・考古学メジャー/茨城史料ネット/第三井専道

本通子手板立御（馬場町） 写真（上から）白土城常陸太田中学校講堂・来迎寺・直徳寺（香仙寺）・雲村筆 紙本着色墨絵音図（正宗寺）

FCバンディエラ常陸太田

塩原 慶子

少子化の進む地方でますます重要性を高める地域スポーツクラブをシリーズでご紹介いたします。

二〇〇八年、久米サッカースポーツ少年団でもコーチとして指導をしている渡辺聡さんが、子どもから大人までもっとスポーツを楽しめる環境を作ろうと、フットサルとバレーボールのクラブ Athletic Club BANDIERA (ACバンディエラ) を立ち上げたのがクラブのスタートです。チーム代表の茅根隼人さんは水戸ホーリーホックジュニアの監督の経験もあり、その経験を地域の子どもたちに還元し、スポーツを通して地域の活性化を図ろうと、二〇一六年、高校サッカー部の同級生で峰山中学校サッカー部の外部コーチをしていた高尾亮さんとともに、渡辺さんのクラブを基盤として、ジュニアユースチームとサッカースクールを創設しました。翌年、地域スポーツクラブの重要性が増したことで、団体としての責任もしっかりと担えるようと、一般社団法人の法人格を取得、社会教育の一環としてのスポーツの原点をしっかりと見つめ、地域密着・地域貢献としてのスポーツ活動を常陸太田市で繰り広げています。常陸太田市だけでなく、大子町・



Football Club BANDIERA Hitachiota/ フットボールクラブバンディエラ 常陸太田
 設立/2016年 会員数/中学生44名、小学生(スクール生)52名
 練習日/中学生:火・水・木曜日19:00~21:00(土・日曜日は主に試合)
 小学生1-3年生:火曜、木曜 4-6年生:水曜、金曜 18:00~19:00(月曜日は隔週でフットサル)
 月謝(会費)/小学生:3,000円、中学生:8,000円
 問い合わせ/茅根 隼人(携帯:080-3322-5360) 事務局:0294-70-3307(渡辺)
 ※サッカーのほかに、フットサル部、バレーボール部、バドミントン部も活動しています。

東海村・那珂市・常陸大宮市などから来る子どもたちがいたり、遠征試合の送迎に地元の魚屋さんが送迎バスを貸し出してくれたり、練習をじっと見守る保護者さんたちの眼も温かく、地域密着型のスポーツクラブのお手本のようでした。



文化の拠

舞鶴水墨画会

黒羽 文男

舞鶴水墨画会は、平成十三年に生涯学習センターで開催された水墨画の講座を受講したメンバーで発足しました。

活動は、春や夏に近場へ出かけスケッチ、また、静物デッサンの研修会等を行い、これをもとに作品の制作を行っています。

一つの作品を制作するには十数日の制作期間が必要です。描く対象物の外観だけではなく心の眼でその実態や本質を掘りさげ、感じ取ったものを、滲みやぼかし等を駆使し墨色で表現していきます。活動日に作品を持ち寄り、絵の構成や、改良点などを会員全員で評価し制作技術のスキルアップを図っています。水墨画は、塗り直したり消したりできず、一筆一筆に込める緊張感に脳に良い刺激を与えるので老化防止に役立つと言われています。斎藤会長は、「水墨画は、見る人の魂に響き、迫り感動させる事のできる精神性の高い絵画芸術」と言っています。舞鶴水墨画会は随時会員を募集しています。皆様の参加をお待ちしています。



人員構成/11名 活動日/毎月2回(第1、第3月曜日)
 活動場所/菅田公民館ホール
 活動費/年会費4,000円、展示会費3,500円
 連絡先/会長:斎藤俊彦 0294-73-0077
 常陸太田市教育委員会文化課 0294-72-3201

29 島「常陸太田市島町」

川松 博



前方後円墳の梵天山古墳

<参考文献>
 「新編常陸国誌」「常陸国郡郷考」「古代地名語源辞典」
 「茨城県地名大辞典」「常陸太田市史一通史編一」

島町にある県内第二位の規模を有する梵天山古墳は、久慈国造の船瀬足尼の墳墓と伝えられている。この地は『和名抄』にみえる常陸国久慈郡二十郷の一つである志万郷にあたる。この志万の郷名がこの地名に由来しているといわれる。志万郷の名は、久慈川と山田川の合流する一帯が両河川にはさまれて島のような形をしていたことによるという。また、「シマ」という地名の土地は、周囲を流水で囲まれた地で、そこに河川港が発達し、物資の集散地や水上交通の中心地として集落が発達して「シマ」郷と呼ぶようになったと思われる。



『ぐるんぱのようちえん』

栗原 香 (大里町)

私が「ぐるんぱのようちえん」に出会ったのは幼少期です。当時、幼稚園教諭をしていた叔母にプレゼントしてもらったから、ずっと側にあるお気に入りの一冊です。

「ぐるんぱのようちえん」は、一人ぼっちで泣き虫のゾウのぐるんぱが、仲間を背中を押され働きに出ます。行く先々で失敗を重ねつつも前に進み、自分を必要としている人々に出会ったことがきっかけで、とうとう自分の居場所を見つめます。そして、ついに天職を見つけたぐるんぱが幼稚園で楽しく遊んでいるページは、心をほっこりさせてくれます。

この絵本との出会いからわずか数年後の小学二年の時から、私の将来の夢は幼稚園教諭となり、二度も心変わりすることなく夢を叶え、幼稚園教諭になりました。私の人生の中で、幼少期の出会いから始まり、実習時を含め先生となつて子どもたちに、母となつて娘たちにと幾度となく手にしてきました。そして、今春、長女が幼稚園教諭の夢を叶えるため大学に進学しました。入学してほどなく、ある授業で絵本を使うとのこと、そして長女の選んだ絵本は、ぐるんぱのようちえん」でした。まさしく私たち親子の夢を繋いだ一冊になっています。

初版が一九六六年のロングセラー作品である「ぐるんぱのようちえん」。ストーリーの中にたくさんの「気づき」や「学び」がまつた本、そこには長年愛される理由がいくつもあります。母から娘、娘から孫へと、我が家のロングセラー絵本になりつつあります。



ほっと ひといき

『ヤコウタケ』

佐々木 泰弘

ヤコウタケ（夜光茸）の名のように光るキノコとして有名なキノコです。日本には光るキノコは何種類か知られていますが、その中でも光の強さは強い方です。八丈島などでは「グリーンペ」の愛称で観光見学ツアー等も行われています。しかし、暖かい地方のキノコですので、茨城県では移入した椰子の木にくっついてきたのが報告されたくらいでした。それが、昨年思い

きょうと ひといき

『今日ハ晴レ』

塩原 慶子

仕事仕事で懸命に過ごした日々を終えたとき、これからは田舎でゆつくりと過ごしたいと縁もゆかりもなかった常陸太田の古民家を購入・改築し、習い覚えた手打ち蕎麦のランチを出すギャラリー&ランチのお店を始めました。雰囲気あふれる古民家の中でゆつたりと景色を眺めながら、ひとつひとつ丁寧に作られたランチがいただけます。懐かしい実家に戻ってごちそうをいただいているような暖かな気分になれるお店です。



- 前菜三種盛り、水産産常陸秋そば、手作りフルーツケーキ、コーヒー or 紅茶 1,500円 (要予約)
- 手作りフルーツケーキ、コーヒー or 紅茶 600円

営業時間 / 11:00 ~ 15:00 営業日 / 火曜日、水曜日

住所 / 上土木内町 365 電話 / 0294-33-9818

県道 157 号線沿い、西小沢小学校前から東へ約 1 km。水路沿いで車がすれ違いにくい道路ですのでお気をつけてお出かけください。

Web サイト / <https://kyohahare.com/>



新太田点描 20

山寺と鬼谷山人

水戸徳川家二代藩主光圀公（義公）は、元禄三年（一六九〇）に藩主の座を綱條公に譲り太田西山に隠居所を建てて移り住んだ。

また義公は、生母谷久子（久昌院）の菩提を弔うために西山荘の近くに久昌寺を建立している。この時久昌寺に院代として京都から招かれた日乗上人は、晩年の義公の日常生活を具に書き留めた日記を残している。

久昌寺は創建当時から一般には「山寺」とか「山の御寺」とか呼称され歴代藩主及び藩士からも尊敬され領民からも敬慕されていた。

今回ここに掲載した一幅の書軸は、久昌院の一族の子孫谷維明が久昌寺を訪れた時に詠んだものである。

山寺の春のゆふくれきてみれば入相の鐘に花そちりける

無端七十送春忍 幡牧幡推臥閉門 山寺
鐘聲花落夜 閑情只在此黄昏

鬼谷山人

拙い読みで甚だ心もとないので皆さんに再検再読してもらいたい。

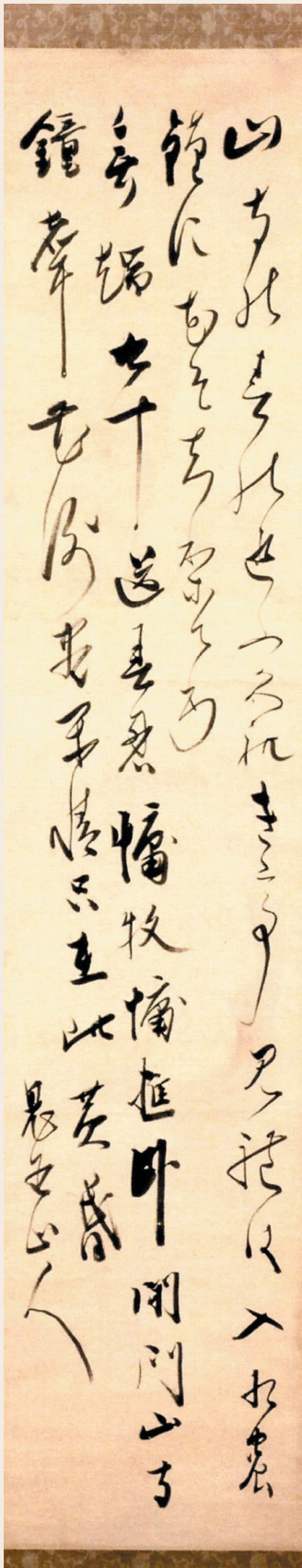
ここで、この歌・詩を詠んだ鬼谷山人を少しく紹介しよう。鬼谷は宝暦九年（一七五九）水戸藩士谷維揚の子として生まれた。諱を忠明、字を子陽、通称は佐之衛門、瑞摩堂と号した。天明四年（一七八四）から藩士として諸役を歴任しているが、佐久間流の軍学者として著名であった。文政三年（一八二〇）に致仕、隠居後に鬼谷と改号して余生を送り、天保三年（一八三二）に七十六歳で死去している。

ところで、この書で気に留めなければならぬのは署名である。「鬼谷山人」とあることから致仕後に詠まれたことは明らかである。

掲載の歌・詩文を熟読してみると、九代藩主斉昭公（烈公）が天保十三年（一八四二）に水戸藩領内で水戸八景を選定し、その一つとして「山寺晚鐘」を指名しているが、それよりもズーと以前に詠まれていたことがわかる。

八景の選定は中国の瀟湘八景が始まりとされ、やがてそれが日本に伝わり、国内各地に〇〇八景が数多出現することになる。

果たして「山寺」「入相の鐘」や「山寺鐘聲」「黄昏」等の文言は寺院を詠む時に、その表現手段としてごく普通に使われていたのであるうか。これらはやはり読者にとって日本的情感を漂わせるような気がするの私だけだろうか。（吉成英文）



（紙本、半折・軸装）